

学校教育目標

支え合い高め合う集団の中で、夢の実現に向けて確かに歩む児童の育成

【支え合い高め合う集団】

- 人権感覚……（他者を大切にできる態度）
- 自尊感情……（自己実現への有能感）
- 仲間意識……（友だちとのつながりの実感・共感）
- 社会性……（他者との協調・配慮，集団に対する責任の自覚及び態度）

【夢の実現に向けて確かに歩む児童】

- 自己分析……（振り返りの習慣化・メタ認知）
- 将来展望……（進路選択・将来の生き方・あこがれ）
- 継続力……（目標実現への見通しをもった粘り強さ）
- 主体性……（自ら設定した目標に向けて進んで取り組む姿勢）

Keyword

めざす子ども像

自ら学び やさしく たくましい 鏡山の子

—— 確かな学力 ——

目標を決め、努力する子

- ◆学習活動の基本となる「学びの約束やルール」を確実に身に付けることができる。
- ◆基礎的・基本的な知識・技能を習得し，学習基盤の確立を図ることができる。
- ◆集団的活動等を通して，コミュニケーション能力や論理的思考力を育むことができる。
- ◆日々の授業と連動した家庭学習（15分×学年）を主体的にやり遂げることができる。
- ◆決められた学習だけでなく，子ども自らが選択した課題をもとに，自主学習に積極的に取り組むことができる。
- ◆興味をもったことや疑問に思ったことを追究するために，計画を立てて実行することができる。

—— 豊かな心 ——

友だちを思いやる子

- ◆自分から進んであいさつをすることができる。
- ◆友だちと一緒にやり遂げる楽しさを味わうことができる。
- ◆共によりよく生きるために，お互いの生き方や価値観の違いを認め合い，そのよさを伸ばしていくことができる。
- ◆友だちの心の痛みを自分の心の痛みとして感じることができる。
- ◆いじめ等の行為に対して，正義感をもって対処することができる。
- ◆自分のよいところをたくさん見つけ，それを他のために生かそうとすることができる。

—— 健やかな体 ——

心も体も元気な子

- ◆主体的に運動やスポーツを実践する中で，運動することの楽しさやよろこび，達成感・成就感等を味わったり，心の安定を保ったりすることができる。
- ◆心身の健康の保持増進をめざして，基本的な生活習慣を確立することができる。
- ◆子ども自らが学校や地域において危険を予測し，適切に行動することができる。
- ◆心身の健やかな成長・発達を阻害することに対して正しい知識をもち，毅然とした態度で身を守ることができる。

めざす学校像

—— 「チーム鏡山」の一員であるという誇りを胸に ——

- ◇一人一人がいきいきと輝く学校づくりをめざす
- ◇教職員自らが自己の資質や能力の向上をめざす
- ◇教育者としての責任を自覚し，確かなビジョンと力量をもつ教職員集団をめざす
- ◇市民ぐるみ・地域ぐるみの教育の核となる学校をめざす

保護者・地域との連携

具体策としての基本指針

「確かな学力」の育成に向けて

1. 普通授業の充実

- ◇すべての児童が「わかる喜びと学ぶ楽しさ」を実感できる、一人一人の個に応じた授業をめざし、常に効果的な指導方法や指導体制の工夫・改善を図る。
- ◇各学年で指導すべき基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、すべての児童に学習基盤の確立を図る。
- ◇授業において、毎時間の「学習課題」を提示し、その実現のために発達の段階に応じて設定した言語活動を経て、学習課題に応じた「まとめ」と「振り返り」を行うことを徹底する。
- ◇外国語活動の中学年での必修化及び高学年での教科化を見据え、児童が英語の音声や基本的な表現に十分に慣れ親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ◇児童が発達の段階と特性に応じてICT機器等を効果的に活用し、情報の収集・分析・まとめ・発信・伝達等ができるようにするための学習活動の充実を図る。

2. 読書活動の充実

- ◇学校図書館を意図的・計画的に活用する。
- ◇「読みたい時にすぐに手の届く場所に本がある」等、読書環境の充実を図る。

3. 言語活動の充実

- ◇授業はもとより、朝の会や帰りの会での日直による1分間スピーチ等、各学級での言語活動の充実を図る。
- ◇学年集会、全校集会等、「伝え合い」を意識した取組の充実を図る。

4. 家庭学習の充実

- ◇家庭と連携して、家庭学習の充実（15分×学年＝家庭学習の時間）を図る。
- ◇児童自らが課題を選ぶ主体的な学びをつくるため、日々の授業と連動した家庭学習を進める。
- ◇各学年の「鏡山版 家庭学習のすすめ」を作成し、懇談会等を通じて保護者への働きかけを行う。

★教員自らが授業力向上に向けて研鑽に励む。

★学習するための約束やルールを一人一人の児童が確実に身に付け、すべての児童が安心して学習に臨めるよう、学習規律の徹底を図る。

「豊かな心」の育成に向けて

- ◇共によりよく生きるために、お互いの生き方や価値観の違いを認め合い、そのよさを伸ばしつつ、共通して守るべきものはしっかりと身に付けていく、「しなやかな道徳教育」の実践を推進する。
- ◇同和問題指導や人権学習をはじめとするあらゆる教育活動を通して、人権問題解決に向けた実践的態度の基礎を培う。
- ◇宿泊学習をはじめとする豊かな体験活動等を通して、伝統と文化を尊重する心、共に生きるために大切な公共心や公德心、生命を尊重する心、感謝する心を育成する。
- ◇すべての学校教育活動を通して、自分を愛し、他の児童を愛する心情を育成する。
- ◇温かい家族のふれあいを通して、児童の心を豊かに育む。

★教職員一人一人が同和問題をはじめとするすべての人権問題の理解と認識を深め、人権意識を高めると共に、児童一人一人をかけがえのない存在として尊重する。

「健やかな体」の育成に向けて

- ◇体育学習及び運動部活動の充実を図り、運動能力及び体力の向上に向けた取組を推進する。
- ◇食事、運動、休養・睡眠の調和のとれた望ましい生活習慣を確立する。
- ◇学校給食を「生きた教材」とした食に関する指導を推進し、望ましい食習慣を養う。
- ◇安心・安全な食品を選択する力や食に関わる人々・食材への感謝の心を育成する。
- ◇飲酒、喫煙、薬物の有害性・危険性等の正しい理解と一生涯にわたる行動に結び付く指導を徹底する。

★家庭との連携を通して、基本的生活習慣の確立を図る。

「チーム鏡山」としての教職員組織の確立及び上記の3つの柱を重点とした取組の推進を学校経営の基本指針とする。